

都市計画マスタープラン全体構想と地域別構想の概要について

I 全体構想

1 将来都市構造

都市づくりの基本理念

- 活力あるまち**
 - 旧空港用地、幹線道路を活用した産業立地の受け皿づくり
 - 高齢社会のなかでも、活力を維持するための、多様な世代が暮らしやすいまちづくり
- 暮らしやすいまち**
 - 徒歩、自転車が便利で、楽しく利用できるまちづくり。
 - 身近な水と緑のネットワークがあるまちづくり
 - 住工混在、高さの混在を防いだ暮らしやすいまちづくり
 - 安心・安全なまちづくり
- 時代に向き合うまち**
 - 「臨空」をキーワードに産業、文化交流、防災の機能を活かしたまちづくり
 - 「コンパクトなまち」をキーワードに、環境に配慮したまちづくり
 - 「食の安全」をキーワードに、大地の恵みに親しめるまちづくり

都市構造の考え方

- 産業立地の受け皿、人口の受け皿をつくる
- 「暮らしやすさ」「安心・安全」を都市の形として示す
- 空港とのつながりを都市の形として示す
- 都市機能をコンパクトに集約する
- 「農」「食」という視点からのまちづくりを表現する

- 広域交流拠点をエアポートワークを核として集約する
- 空港と既存産業を核とした産業振興拠点を集約配置する
- 空港機能を活用した広域防災拠点を配置する
- 北部市場の特性を活用し、新たな付加価値も創造し、「食の拠点」として位置づける
- 北部市場と広域交流拠点を結ぶ「にぎわいの軸」をつくる
- 既存の商業、公益的施設の集積を活かし、日常の買い物やコミュニティ形成、文化活動等の拠点を形成する
- 幹線道路ネットワークと河川を活用しながら「自転車・徒歩」の軸を明確にする
- 身近な水と緑を活用して都市内のうるおいを創出する
- 住工の混在、高さの混在のない暮らしやすい市街地環境をつくる
- 市街化調整区域の農地保全と市街化区域内の農地の活用

